

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科 昼間部		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	呼吸発声発語系の構造機能病態		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期 月曜2限	教室名	4校舎401
担 当 教 員	小川れい	実務経験とその関連資格	総合病院にて呼吸発声発語系の障害に対する言語聴覚療法業務に従事			
《授業科目における学習内容》						
音声言語はコミュニケーション手段の中心であり、生活の中でも音声言語による伝達は非常に重要なものといえる。音声言語を発するベースとなるのが呼吸機能であり、コミュニケーション障害を扱う言語聴覚士にとって、呼吸に関する知識は欠かせないものである。この講義では、発声発語系(音声言語)につながる呼吸機構とその病態について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テスト(筆記試験)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
資料配布 パワーポイント						
《授業外における学習方法》						
復習は大前提ですが、自宅で復習できなかった時は、授業開始前に数分でも良いので前回分の内容を振り返ってください。						
《履修に当たっての留意点》						
今後、言語聴覚士を目指す上で土台となる科目です。1時限ごとに復習し、しっかり理解しながら進めて下さい。						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器系器官を覚え、呼吸の仕組みを説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書で呼吸に関する解剖を見直す	
		各コマにおける授業予定	呼吸器系の全体像、呼吸器系器官の概要について知る。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	肺の構造を覚え、呼吸器系の仕組みを説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書で呼吸に関する解剖を見直す	
		各コマにおける授業予定	肺の構造、呼吸機構について知る。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器系のメカニズムを理解し、説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書で呼吸に関する解剖を見直す	
		各コマにおける授業予定	呼吸器系の構造、呼吸機構について知る。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸機能検査を説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書で呼吸機能検査を見直す	
		各コマにおける授業予定	呼吸機能検査(血液ガス分析・パルスオキシメーターなど)を学ぶ。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸機能検査とそれによってわかる呼吸の障害を説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書で拘束性換気障害を見直す	
		各コマにおける授業予定	呼吸機能検査(スパイロメータ)でわかる呼吸器の障害(拘束性換気障害と閉塞性換気障害)について知る。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	拘束性換気障害を引き起こす疾患について説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書で閉塞性換気障害を見直す
		各コマにおける授業予定	拘束性換気障害について学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	閉塞性換気障害を引き起こす疾患について説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書で呼吸機能検査について見直す
		各コマにおける授業予定	閉塞性換気障害について学ぶ。		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸リハビリテーションを理解し、説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書を見直し、喉頭の解剖を図解で描いてみる
		各コマにおける授業予定	呼吸リハビリテーションの知識と、演習を通して基礎技術を学ぶ。		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			